

公益社団法人 日本ボディビル・フィットネス連盟

平成26年度 第1回社員総会議事録(抜粋)

◇ 日 時 平成26年6月15日(日) 午後3時30分 開会

◇ 場 所 国立スポーツ科学センター 2階研修室
東京都北区西が丘3-15-1 03-5963-0200

◇ 会長挨拶

平成26年度第1回社員総会に皆様はるばる全国各地よりご参集ご苦労様でございます。公益法人を取得して2年度になる訳ですけれども、いろいろな懸案の事項が山積しております。

まず第一にボディビル・フィットネス連盟と言う名称に伴って新しい競技を今年度から正式に採用していく方向になっております。この新しいフィットネス競技の合理的な運用ということが非常に大事な要になってくると思います。こういったことが今年度の大きなテーマの一つです。

二番目にアジア競技大会(ビーチゲームズ)の正式種目にボディビルが復活いたしました。それに伴ってボディビルがどれだけ競技力向上の結果、成果を発揮できるか。つまり金メダル、銀メダル、銅メダルをどれだけ獲得できるかです。究極はオリンピックに参加することが目的です。そのためにはやはりメダル獲得を目指して頑張っていかなければいけません。

三番目は勝つための手段としてドーピングが非常に蔓延している。これを徹底的にクリーンにしないといけない。これはまず日本連盟自体が一人も出さないようにしていただきたい。残念ながら昨年は4名出したわけです。これはJADAにおいても大きな問題になってしまい、今まで他の団体が年間に4名出したということはない。このまま進むとゆゆしい問題になると言われています。JADAから。ゆゆしい問題と言うことは、競技連盟としての資格がなくなるとか、JOCに留まる資格がなくなる可能性を暗に示唆されている。こうなりますと我々が60年かけて積み上げてきたボディビルの評価と成果が根底から揺るがすこととなります。これはボディビル連盟の理事、正会員だけの問題ではない。各県連盟、加盟ジム、全選手、審査員一丸となってアンチドーピングを徹底していかなければいけない。こうとらえております。

その次に先ほどらい、専門委員会、運営委員会で検討されております公益法人の新たな獲得に伴って、会員システムが大きく変更してくるということです。つまり全国民公平に差別なく対応せよというのが公益事業の目的です。それに大きく逆らうことのない方向にしていかなければいけない。しかし、それにはその団体の歩んできた歴史的背景、これはやはり重視しながら一步一步両立するようにもっていくのが、我々のもっている知恵と言うものでないかと思っております。

それから四番目はこういったことをつつがなく実行に移して頂きます。それには財政状態と言うものが伴っていないといけない。財政の強化充実。これはいろいろありますが、まずは会員の拡大、登録者の拡大、これによって安定財源が増えるわけです。その上立ってスポンサーの獲得とか、補助金の獲得とか。まずボディビルの登録者、現在が約5千人ですから、これが1万人になれば全然違ってくる。1万人にすることはそうそう現在のボディビルの持っている内在的な実力からいえば難しい問題ではない。しかし皆様方一体となって協力がなければできません。これも改めて協力をお願いします。

さらに五番目として取り組まなければならないのが体協加盟と言う問題です。体協加

盟の実現に向かって、特に赤木理事よりいろいろ有益なご助言を頂きましたけれども、体協加盟と言うものは私はどんなプラスか、どんなメリットが我が連盟にあるのだろうかをずっと考えていますが、まず第一に考えられることは、体協加盟をすることによって社会的な認知度、スポーツの総本山と言え日本体育協会と言うのはもうすでに100年以上の歴史を作っているわけです。

加納治五郎さんが大日本体育会というのをつくって、今では日本のアマチュアスポーツは日本体育協会が中心となっている。ここに加盟することによって社会的な認知度、信頼度が高まる。これが第一。第二は国とか地方自治体がする行政施策、つまり健康づくりと言うのがいま国を挙げての重要な課題。この施策と連携できるということです。ボディビルが体協に加盟すれば県の体協の施策、県の健康づくりの施策と連動しながら前へ進めるということ。こういったプラスがある。さらにそうなってくると、財政基盤の強化にもつながる。もちろん体協に加盟したからと言って補助金がそうたくさん出るわけではありません。しかし社会的な認知度信頼度、国や自治体との連携が可能になるとスポンサーの信頼度が違ってくる。スポンサーが比較的取りやすくなる。こういったことです。それから国体への参加の道も開ける。もちろん加盟したらすぐ出られるというわけではありません。ゲートボールが加盟してから10何年たってやっと公開競技ですから、ゲートボールがなっている状態ですけど、しかし全然違ってくる。そういったいろいろな具体的なメリットが考えられます。体協への加盟と言うことも念頭に置いて今年はいろいろと積極的に前進していく。そういうわけで今回の総会、皆様方の積極的なご意見賜り今後の我々の力強い発展にしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。

◇ 議長選出 定款第15条に基づき、玉利齊会長の指名により吉田進副会長が議長に選出された。

◇ 定足数の確認 正会員総数55名。出席理事、正会員27名、委任状による出席正会員27名、合計出席正会員54名により、定款第4章第17条に定める2分の1以上の定足数を満たし、有効に成立していることが事務局より報告された（委任者の内容を説明）。

決議事項

【第一号議案】平成25年度事業報告及び収支決算について

（期間：平成25年4月1日～平成26年3月31日）

1. 事業報告

吉田進副会長より平成25年度事業報告があり、出席者全員と委任出席の54票で承認された。

2. 決算書類

- 貸借対照表
- 損益計算書（正味財産増減計算書）
- 財産目録
- 収支計算書（キャッシュフロー）

3. 借入金について

- (1) 基本財産500万円を興産信用金庫定期預金に運用（1/24）
- (2) 短期運転資金の借入を実施（定期預金を担保）＜事後承認事項として＞（興産信用金庫）
 - 1/27 興産信用金庫より490万円借入
 - 4/30 完済

(3) 今後の担保借入

運転資金の活用（借入）として、上記2の運用を行う。

運転資金の借入として、定期預金（500万円担保）の限度内で実施する。

事業収入増大施策

選手登録数の増大、主催大会新規カテゴリーの開設、各種講習会の実施、各種登録制度の実施（ヘルスウエイトトレーナー、パーソナルトレーナー、認定クラブ他）、公認・推奨品の開拓、大会スポンサーの獲得、企画収入の充実（360°で見られる選手映像、トレーニング指導映像、上位選手との交流イベント、主催大会の映像配信有料化）他

小西康道事務局長より平成25年度決算報告があり、出席者全員と委任出席の54票で承認された。

4. 監査報告

佐藤和弘監事（公認会計士）より平成25年度決算の監査報告があった。

その他報告事項

1. 山梨県の正会員変更について、理事会で承認されたことが小西康道事務局長より報告された。

現 大山雄将正会員

新 内藤隆之氏

2. 規程の改定

(1) 賞罰規程 第5条2項として挿入

2 前項(2)により資格の停止を受けた会員が、当該資格に基づいて本連盟に、登録費その他の費用を支払うべき場合には、資格の停止を受けている期間は、本連盟はその請求をしない。

(2) ドーピング防止規程 第13条として挿入

【資格停止期間中の登録費】

第13条 資格の停止を受けている期間は、この登録費を本連盟は請求をしない。

(3) 加盟同好会認定規程

【認定の条件】第2条7. (旧) 同好会の名称は、〇〇ボディビル同好会とする。

(新) 同好会の名称は、〇〇ボディビル同好会、〇〇ボディビル・フィットネス同好会のどちらかを選択する。

小西康道事務局長より規程の改定(1)(2)(3)が理事会で承認されたことが報告された。

3. 専門委員会

(1) 体協加盟推進委員会の設置

委員長 赤木 恭平理事

委員 石井直方理事、吉田進理事、藤原達也理事、酒井孝理事、辻本俊子理事、加藤勇理事、嶋岡克己正会員、小川淳正会員、内藤隆之正会員

(2) 国際委員会に推薦

① 遠藤 哲氏

② 木下美弥子氏 公認審査集計員

(3) 医科学委員会に推薦

① 清水恵理子氏 薬剤師

小西康道事務局長より規程の(1)(2)(3)が理事会で承認されたことが報告された。

4. IFBB プロ認定選手登録申請について

申請者氏名：中村静香（福島県） 受付日：3月17日

玉利齊会長より IFBB プロ認定選手登録申請の中村静香選手を推薦するか内容を再確認するため保留とした。

5. 新規加盟クラブ及び退会クラブ

(1) 新規加盟クラブ

①所属	：栃木県連盟（クラブ）正加盟	受付	：平成26年4月14日
クラブ名	：ゴールドジムスパレア足利	設立	：平成19年11月1日
②所属	：京都府連盟（クラブ）準加盟	受付	：平成26年4月9日
クラブ名	：セイノーGYM	設立	：平成24年11月7日
③所属	：長崎県連盟（クラブ）正加盟	受付	：平成26年3月3日
クラブ名	：ファースト フィットネス	設立	：平成7年7月3日
④所属	：沖縄県連盟（同好会）準加盟	受付	：平成26年4月2日
クラブ名	：八重山筋骨堂ボデビル・フィット同好会	設立	：平成24年9月2日
⑤所属	：日本社会人連盟（クラブ）正加盟	受付	：平成26年4月7日
クラブ名	：(株)Do itボデビル・フィットネスクラブ	設立	：平成元年1月24日
⑥所属	：日本社会人連盟（クラブ）準加盟	受付	：平成26年3月12日
クラブ名	：森田アドオフィスボデビルクラブ	設立	：平成22年4月1日
⑦所属	：大分県連盟（クラブ）準加盟	受付	：平成26年6月4日
クラブ名	：マチカラ フィットネス 大分	設立	：平成22年6月1日
⑧所属	：日本社会人連盟（クラブ）準加盟	受付	：平成26年6月5日
クラブ名	：社会人OBボデビル・フィットクラブ	設立	：平成26年4月1日

(2) 退会クラブ

①埼玉県連盟	所沢ヴィクトリージム	井上 力代表	退会（運営継続）
②千葉県連盟	スポーツジムJETS	中村龍也代表	退会
③富山県連盟	YKKバーベル&フィットネスクラブ	平田 哲代表	退会（運営継続）
④石川県連盟	Body Make Studio G-way同好会	谷屋勝栄代表	退会（運営継続）
⑤三重県連盟	尾鷲トレーニングセンター	大川湧司代表	退会（運営継続）
⑥日本社会人連盟	西川石油ボデビルクラブ	西川 亨代表	閉鎖のため退会

小西康道事務局長より新規加盟クラブと退会クラブの申請が理事会で承認されたことが報告された。

6. 平成27年度主催大会、ブロック合同大会の立候補

主催大会

①	7月5日	日本クラス別ボデビル選手権	宮城県連盟	仙台市民会館
②	月 日	ホルンジャパンミスフィット同好会選手権		
③	月 日	ホルンジャパンミスボデビルフィット同好会選手権		
④	月 日	日本クラシックボデビル選手権		
⑤	月 日	ジャパンオープン選手権		
⑥	月 日	日本マスタースボデビル選手権	広島県連盟	
⑦	8月30日	日本女子チャレンジカップボデビル選手権	日本社会人連盟	きゅりあん
⑧	8月30日	ミス21健康美大会	日本社会人連盟	きゅりあん
又は、	9月13日	日本女子チャレンジカップボデビル選手権	日本社会人連盟	きゅりあん
又は、	9月13日	ミス21健康美大会	日本社会人連盟	きゅりあん
⑨	10月12日（月）	全国高校生・日本ジュニアボデビル選手権	JBBF	東京マルパルクホール
⑩	10月12日（月）	男子・女子日本ボデビル選手権	JBBF	東京マルパルクホール

ブロック合同大会

9月6日(日) 北海道連盟より申請 東日本ボディビル選手権

第8回女子東日本、女子東日本ボディフィットネス、

第16回男子東日本クラス別選手権大会

札幌市中央区北2条西7丁目 かでの2・7ホール

月 日() 西日本ボディビル選手権

小西康道事務局長より主催大会、ブロック大会等の主管の現状が報告された。

7. JADA よりの警告通知

青田正順アンチドーピング委員会事務局長より、昨年度はドーピング陽性選手が4名であり、**JADA** よりの警告通知を重く受け止め、今後一人も陽性選手を出さないようにと全国に周知徹底を求めた。これは **JADA** においても大きな問題になってしまい、このまま進むとゆゆしい問題になると言われています。ゆゆしい問題と言うことは、競技連盟としての資格がなくなるとか、**JOC** に留まる資格がなくなる可能性を暗に示唆されている。各県連盟、加盟ジム、全選手、審査員一丸となってアンチドーピングを徹底していくことが報告された。

8. 内閣府へ「平成25年度計算書類及び公益認定に係る書類」の提出することを、小西康道事務局長より報告された。